

2020/11/13

(うとQ世話し コロナ禍直後の経済的「焼野原」に立つ羽目になったとして)

前回の記事で「売上想定0」が考えられる事態として、通りを挟んだ小規模 SC(shopping center)のテナント全てが撤退し、最悪の場合 SC の建物そのものが撤去となり、眼前に終戦直後の「焼野原」状態が拡がる事が考えられました(我々コロナ禍に苦しむ零細飲食業者にとっては正に「悪夢」といえそうですが)

そうして同じ課題に対して前々回に、それを切る抜ける現時点での最善策は「joke しかない」と申し上げ、前回では「御当地宅配 OK のカーリー素材輸入食料品店」のアイデアを思いつきました。

しかしそれではまだまだインパクトが足りそうもないので、今回の記事ではそれを更に一歩進め、仮に眼前が「焼野原もどき」状態となり、あたり一面四方八方すべてのお店が閉店、移転、撤退、廃業、倒産となった場合、つまり四方八方焼野原状態になった場合にどうするか? 或いはまた「どう考えるか?」を検討してみました。

そこででてきた絵姿は

「例えば当店が、焼野原にたった一軒残ったお店だったとして。その空空漠漠たる空間にただ独り立つ奇跡の一本松みたいなお店から、終戦直後の疲弊し落胆仕切った庶民を励ました笠木シズ子の「東京ブギウギ (♪あの娘可愛や、カンカン娘〜♪)」が聞こえてくるような状態を現出出来たら、難破しかけた船が灯台の灯りを目指してくるのようにやってきてくれるのではないか?」というイメージが浮かび「そんな何かを仕掛けてみようか?」という意欲が湧いてきました。

「そうか、苦境を乗り切るにはエンターテイメントしかないのかも」

そのエンタメが今回の場合何であるのか迄は、まだ行きついておりませんが、少なくとも大きなヒントを得た気がしております。

「苦境を立て直す第一が経済、金銭だけとは限らない。もし終戦直後に東京ブギウギがなかったらひょっとしてその後続く奇跡の復興もなかったかもしれない。まずはマインドアップ。それがステップアップの定石ではなかろうか?」

そんな気もして参りました。

お金がないから萎れるのではなく、お金がなくて気分が萎れるからお金が寄り付かなくなって、結果「お金がないから萎れた」と二者を一つのものとして混同しているだけなのかもしれない。

これを上述のように、2ステップに分けて考えれば、別の解決策や打開策が見えてくる様な気がして参りました。

今後、今少し、先に歩みを進めてみたいと思っております。